

愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業 実践報告

- ➡ 社会福祉法人 悠々会
- ➡ 特別養護老人ホームシルバーハウス吹揚
リーダー 河野祥三
サブ 曽我部和也

特別養護老人ホームシルバーハウス吹揚

所在地 愛媛県今治市黄金町3丁目2番地6

開設 平成9年4月

施設長 真木秀和

定員 64床

(2フロア ショート4床)


平均介護度

4.2

職員人数

53名





応募理由

- 福祉用具をいくつか導入しているが、使用していなかったり正しい使い方や方法を理解できていない。
- 職員の知識不足・経験不足のまま手探り状態で使用しているため、内出血など出来てしまう事がある。また、利用者の残存機能を活かしながら使用方法が出来ていない。
- 忙しい業務の中で、手間だと思ってしまい福祉用具を使用せず、いつも通り抱え上げの介助をする職員が多く、腰痛持ちの職員が増えてきている。
- 勤続10年以上の職員も多く、昔ながらの介助を好む傾向にある。



目標

- 職員の腰痛軽減
- 全職員が福祉用具の知識・技術を身に付け誰でも安心安全に介助が行えるようになる。
- ノーリフティングケアに対する全職員の意識を変えていく。

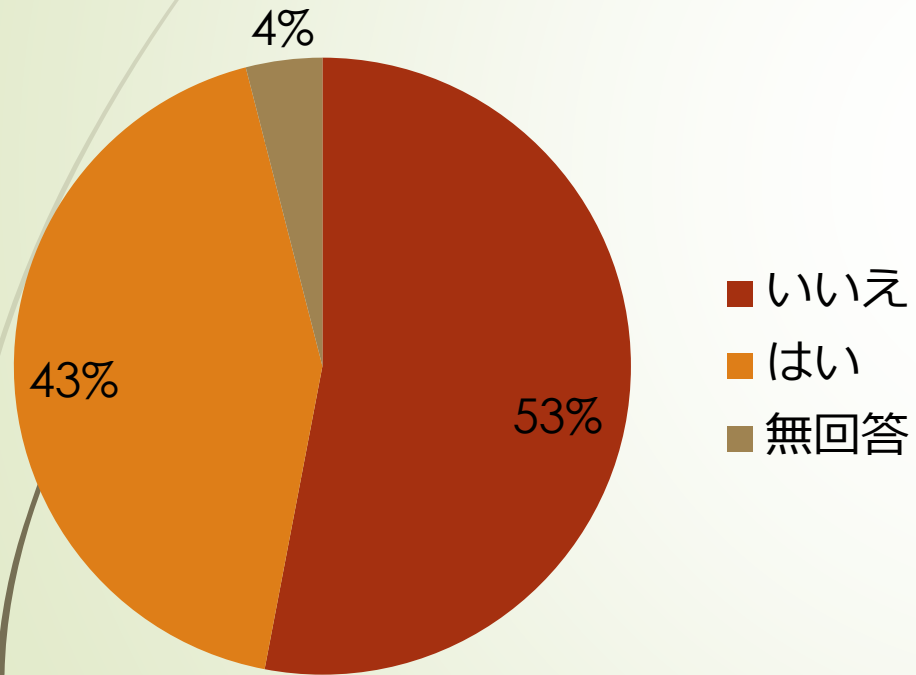


方法

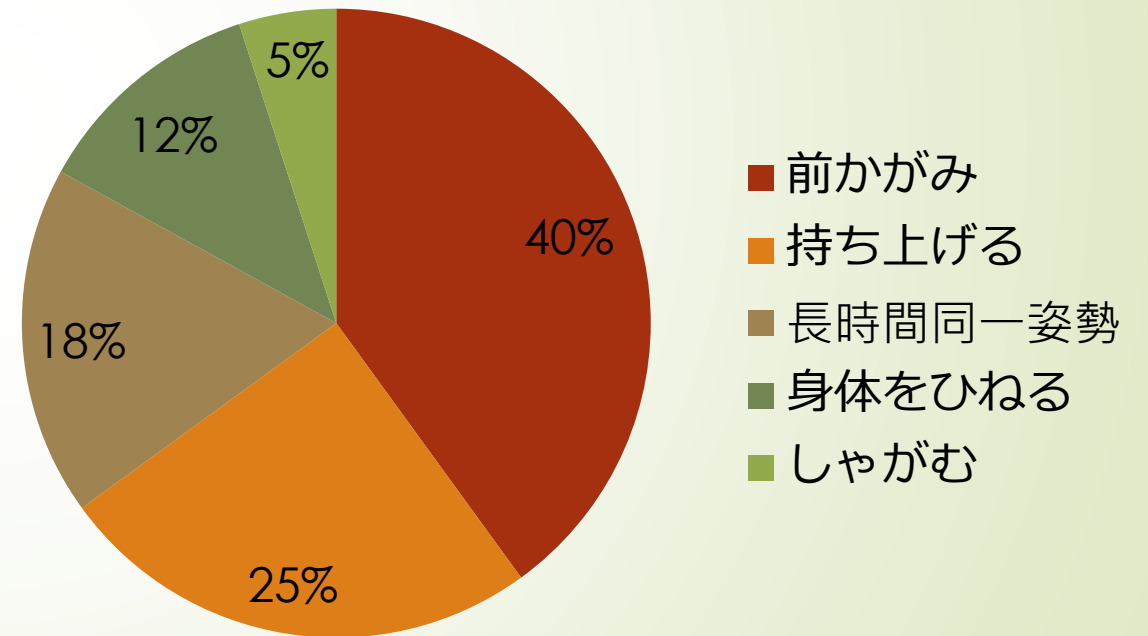
- 1、腰痛に関する事前アンケート
- 2、研修会参加後、施設内で福祉用具の体験会を実施
- 3、全職員を対象にセミナーへ参加
- 4、セミナー参加後、その都度必要な福祉用具について検討・購入する。
- 5、福祉用具購入後、ポジショニング実施
- 6、事後アンケート実施

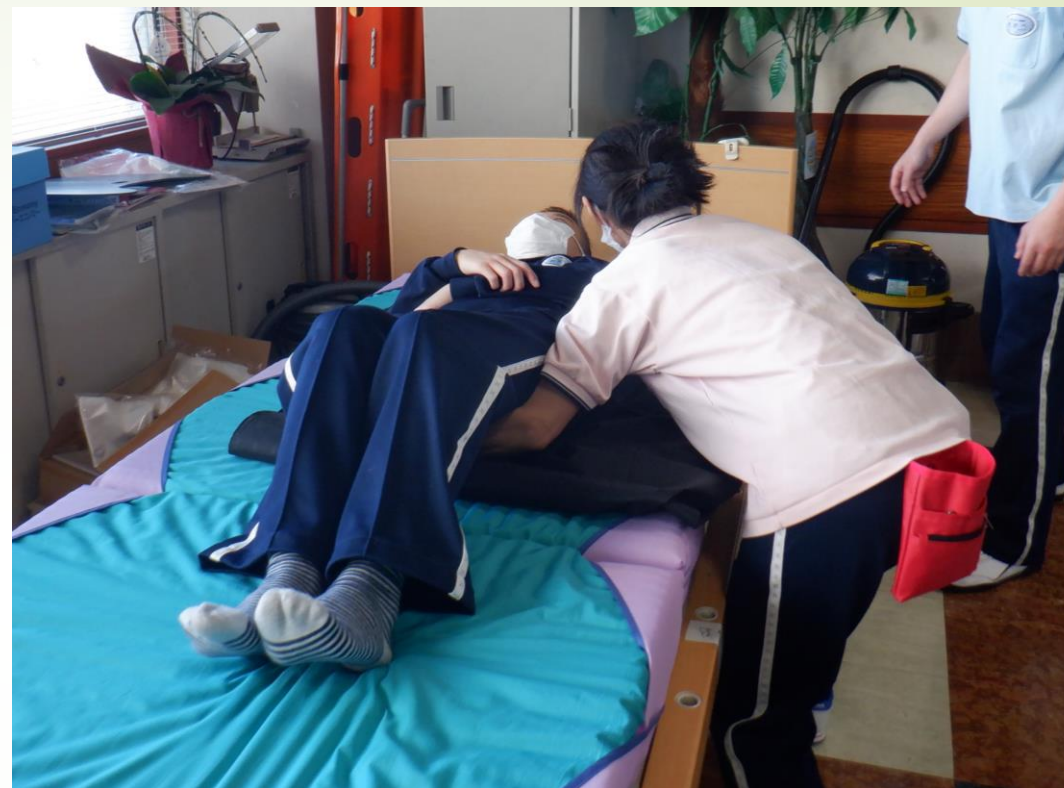
1、腰痛に関するアンケート

現在腰痛はありますか



負担の大きい介助姿勢





2、施設内で福祉用具の体験会を実施

職員一人一人に介助する側とされる側を体験してもらう。介助する側は、自身を持って介助が行えるように練習をする。介助される側は、実際体験する事で利用者さんの気持ちが理解できる。

3、全職員を対象にセミナーへ参加

セミナー 1 回目：姿勢の見方



セミナー 2 回目：姿勢の整え方



4、福祉用具について検討・購入する。



移座えもんシート



フレックスボード



リフト



マーブルクッションD・Q



イージーグライド



マルチグローブ

※マーブルクッションは、取引業者からデモを借り、実際に使用して、対象ご利用者の緊張がゆるみリラックスしている様子が見られたので購入を決めた。

5、クッション購入後ポジショニング実施

- ・マーブルクッションD



全身に力が入って歯を食いしばっていた。



クッション使用後は、力が抜けて表情も穏やかになった。

クッション購入後ポジショニング実施

- ・ マーブルクッションQ



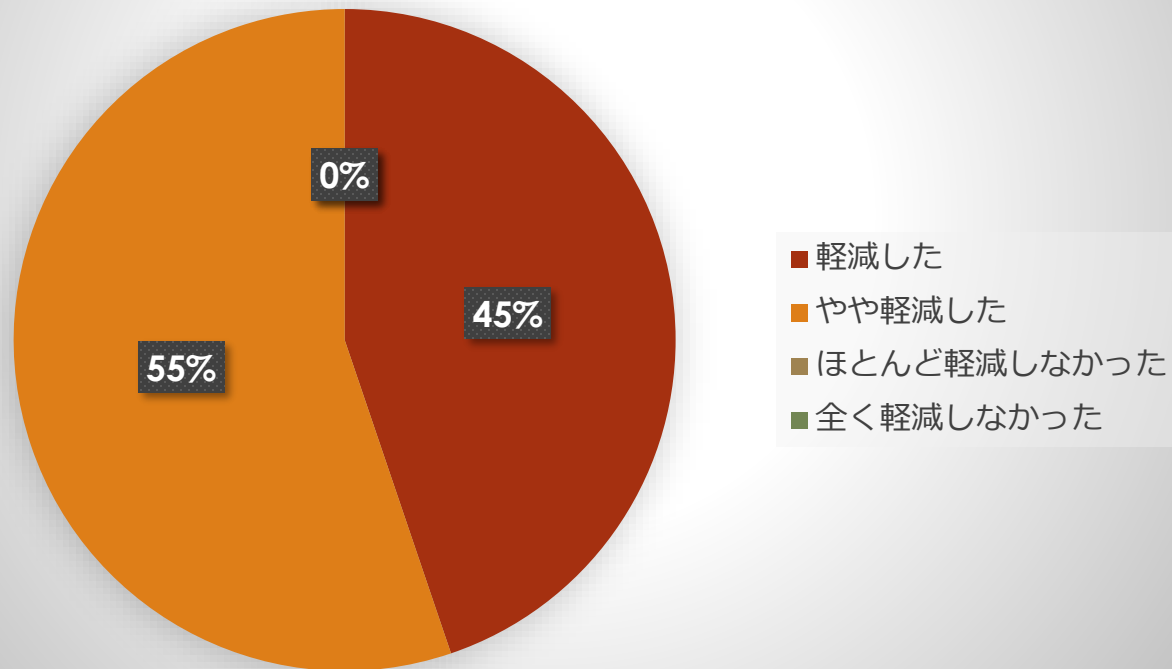
腕や肩の痛みがあり「痛い」とよく叫んでいた。



クッション使用後は、腕や肩の痛みが軽減し、叫ぶ声がほとんどなくなった。

6、事後アンケート結果

ノーリフティングケア導入したことによって、身体的負担が軽減したか？



○軽減した方の意見

- ・福祉用具を使用することにより時間がかかるが、抱える事が減った為、腰への負担が軽減できた。

○やや軽減した方の意見

- ・抱え上げの動作が無くなって腰への負担は軽減したが、手首や腕が痛くなる時がある。
- ・身体の負担は軽減したが、まだ一部抱え上げる場面がある。

今後の課題

- 福祉用具を使用して行く中で、利用者の状態に合わせた環境整備（居室替え・福祉用具の配置）が必要と思われる。
- 現在もまだ抱えている介助場面があるので、今後もノーリフティングケア委員を中心に利用者一人一人にあった介助方法を検討していく。
- まだまだ利用者一人に対してクッションの数が足りず十分にポジショニングができていないのが現状である。
- 施設全体のノーリフティングケアに対する意識を高めていきたい為、今後研修会等参加して知識と技術を深めて施設内に広めていきたい。

ご清聴ありがとうございました。

